

わたしたちの奄美、
わたしたちで守ろう。

Let's protect Amami's native species by ourselves.

》 外来種から鹿児島県の生物多様性を守るために

鹿児島県は南北 600km にも及ぶ県土や 3 つの気候帯を有しています。また、渡瀬線を挟んだ 2 つの生物地理区に属しており、鹿児島県の多くの島々には、固有種、希少種が生息・生育し、独特な生態系が存在します。このため、動植物が持ち込まれることで、生態系に影響を及ぼす侵略的外来種となる場合があります。

世界自然遺産である屋久島や奄美大島及び徳之島でも、外来種が野生化し定着することで、生態系への被害やそのおそれが生じています。

これらのことを十分に理解し、安易に県内へ動植物を持ち込むことのないようにしましょう。

外来種被害予防3原則

入れない

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ「入れない」。



捨てない

飼養・栽培している外来種を適切に管理し、「捨てない」。



拡げない

既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」。



》 外来種は悪者なの？

外来種は、意図的又は非意図的に自然分布域外に持ち込まれた生物です。被害を受ける在来種同様、生態系や人の生活環境への被害を防止するために防除される侵略的外来種もまた「被害者」です。そのことを理解し、自らが新たな外来種問題の原因者とならないよう十分に気をつけましょう。

本県の外来種の詳しい情報については！ [鹿児島県 外来種](#) 🔍検索

鹿児島県の外来種の詳しい情報については、鹿児島県のホームページをご覧ください。

URL <https://www.pref.kagoshima.jp/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/index.html>



写真提供：鹿児島県森林技術総合センター

奄美群島にお住まいの方向け

ソテツシロカイガラムシ 防除マニュアル



わたしたちの奄美、
わたしたちで守ろう。

Let's protect Amami's native species by ourselves.



ソテツシロカイガラムシってこんな生き物

ソテツシロカイガラムシ

学名：Aulacaspis yasumatsui

科名：マルカイガラムシ科
 ▶ 東南アジア
 分布：奄美大島、沖縄県

形態

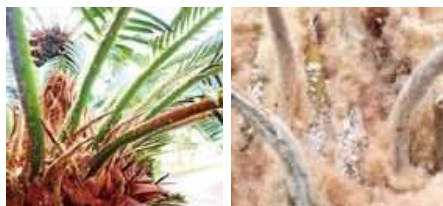
雌成虫介殻は、白色のほぼ円形です。幼虫、雌成虫は黄褐色～橙黄色です。雌成虫は殻で覆われ移動できませんが、雄成虫は羽を持ち、飛ぶことが可能です。また、ふ化後間もない幼虫はオレンジ～黄色で、歩き回ることができます。



写真提供：鹿児島県森林技術総合センター

生態

葉や幹に寄生します。葉では通常葉の付け根や裏面から寄生し、多発すると表面にも寄生し吸汁します。実や雄花にも多数寄生するほか、幹の凹凸の隙間や幹上部の綿毛部分にも潜んでいます。



写真提供：鹿児島県森林技術総合センター

繁殖

奄美大島でも越冬可能で、気温が高くなると繁殖が盛んになります。雌成虫1頭から100頭以上の繁殖が確認されています。



写真提供：鹿児島県森林技術総合センター

ソテツシロカイガラムシによる影響

ソテツ自生地、圃場に甚大な被害を及ぼします。吸汁された部分は黄変し、被害が進むと全体が黄白色になり、葉が全て枯れても翌年に新芽を出すソテツも多く見られますが、翌年以降も繰り返し加害されることで樹勢が弱ると考えられます。

ソテツシロカイガラムシの防除方法

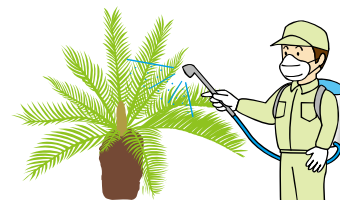
ここを
チェック!

主な生息地 ソテツ科植物

薬剤・被害葉の切除による防除

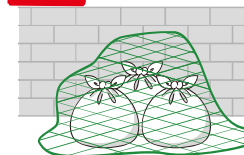
時期 ● 1年中

防除方法



カイガラムシの防除は幼虫期が最も効果的です。奄美大島では4月の新芽に多数の幼虫がみられ、6、7月にも幼虫の発生ピークがみられました。薬剤による防除スケジュールは以下を参考にしてください。薬剤の散布は、春の新芽時期から繰り返し行ってください。新芽や柔らかい新葉にも散布できます。被害を受けた葉は切り落として処分しましょう。

廃棄方法



【被害葉が少ない場合】
 焼却するか、ビニール袋に入れて燃えるゴミに出しましょう。ゴミとして出す際は、地域のルールに従って、適切に処理してください。焼却施設に運搬する場合は、カイガラムシが飛散ないようにビニール袋等にいれましょう。
 【被害葉が多い場合】
 葉を現場で集積し、葉が露出しないようにシート等で全体を被ってください。

主な登録薬剤

- マツグリーン液剤2 ● アプロードフロアブル(対象:幼虫)
 - マシン油乳剤 ラビサンスプレー(夏期)、クミアイアタックオイル
- ※ 農薬はラベルの記載内容を遵守して使用してください。
 ※ 実などを食用とする場合には、薬剤の散布はできません。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
マシン油乳剤												●
マツグリーン液剤2												
その他薬剤												
被害葉切除												

※ マツグリーン液剤2の散布は2週間おきに実施してください。なお、散布は5回までとしてください。
 ※ マツグリーン液剤2を5回散布した後には幼虫を確認した場合、その他の薬剤の散布を行ってください。
 ※ 散布開始時期は新芽の出方によって調整してください。

根絶までの流れ

葉や幹等に寄生したカイガラムシの付着を放っておけば、一気に増殖し、葉枯れが急速に進行します。薬剤散布を行うことで、カイガラムシの密度を下げ、葉枯れの進行を遅らせることができます。そのため、根気強く、薬剤散布、被害葉の切除を繰り返し行いましょう。